

自然観察ちば 研修会

アオコ 水草 ミジンコのはなし

—池沼の水環境保全に果たすミジンコの役割—

前田悦子（千葉市）

日時：2021年12月17日(金)10:00~12:00

場所：千葉市生涯学習センター大研修室

講師：林 紀男 氏(千葉中央博物館 環境教育研究課長)

参加者：25名

池沼の水面を緑色におおっているのは浮袋で浮かぶアオコ。大量に発生したアオコは水質を悪化させます。そんなアオコを退治してくれるのが甲殻類の動物プランクトンであるミジンコ。草食ミジンコはアオコ(藍藻類) 緑藻類 珪藻類など植物プランクトンを食べて生きています。ミジンコの特徴は体が透明であること・血液も透明・大きな目(複眼)と小さな目(単眼)が縦に1列に並んでいること・濾過摂食者・敵が来ると死んだふりをすること・普通は99%がメスで単為生殖をしているが生育環境の悪化で生存危機が迫るとオスを産み休眠卵をつくることなど。ミジンコの棲家は水草ことに沈水植物。

複雑に絡みあい安定した間接相互作用網のなかでは、植物プランクトンを食べ、魚類のエサにもなるミジンコはすべての生き物の根源となっています。

バランスが崩れ富栄養化した池沼で増加したアオコを減らすことにより水を浄化しているのはミジンコであり、ミジンコに必要なのは沈水植物の水草ですが、手賀沼・印旛沼では護岸工事等により1900年代後半、野生の沈水植物は全滅しました。埋土種子から沈水植物を復活させる試みも行われていますが、アメリカザリガニなどの外来魚、外来哺乳類(アライグマなど)、外来水生植物(オオバナミズキンバイ・ナガエツルノゲイトウなど)などが要因でなかなか思うようにはいかないようです。

水草によって生まれる 生物の多様性(にぎわい)・連鎖(つながり)が
水環境を守るためには必要

林先生に「自然観察指導員研修会でミジンコの話をしてください」とお願いしたのが2年前、準備をするにも新型コロナウイルスの拡大でなかなか先に進めず、ようやく実施の決まった研修会、先生の興味深いお話を楽しくうかがい無事を終了することができました。皆様のご協力に感謝いたします。

